



(1) 國學院設立趣意書

皇典講究所開校式（明治15年11月）における初代総裁有栖川宮熈仁親王の告諭には「凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ」と示されている。これは、物事の本質を究明すること（「本ヲ立ツル」）が学問の道において重要であることを意味する。その後、明治23年7月に皇典講究所初代所長の山田顕義伯爵が公表したものが「國學院設立趣意書」である。日本および世界各国の文化・歴史・国の在り方を研究した上で、日本の在り方を問い直すことの重要性が示されている。

(2) 留学・国際交流プログラム

外国語を学ぶ学生のため、ネイティブが講師となる英会話講座「English Lounge」、TOEIC®対策講座などを用意している。海外留学には毎年約100人が参加する夏期・春期短期留学や、より高い語学力の修得を目指す Semester 留学に加え、留学先で現地の学生と同じ授業に参加する協定留学や国際インターンシップなどがある。

(3) アクティブ・ラーニング

法学部では学生が自ら考え、体験し、話し合うアクティブ・ラーニング型授業をさまざまな手法により積極的に導入。例えば、授業テーマから受講生が創り上げる演習や、動画を使って予習を済ませ、授業内ではグループワークを行う反転授業のほか、学生と対話しながら授業を進めるなど、複雑な現代社会の問題について学生が自ら考え、解決する能力を養成している。また経済学部では、外部組織が実際に抱えている「課題」や「問題点」を題材とした課題解決型授業にアクティブ・ラーニング形式を採用。グループワークを通して議論を重ねながら、プロジェクトの完成に向けた協働作業を行うアクティブ・ラーニング科目が充実している。

(4) K-PLAS

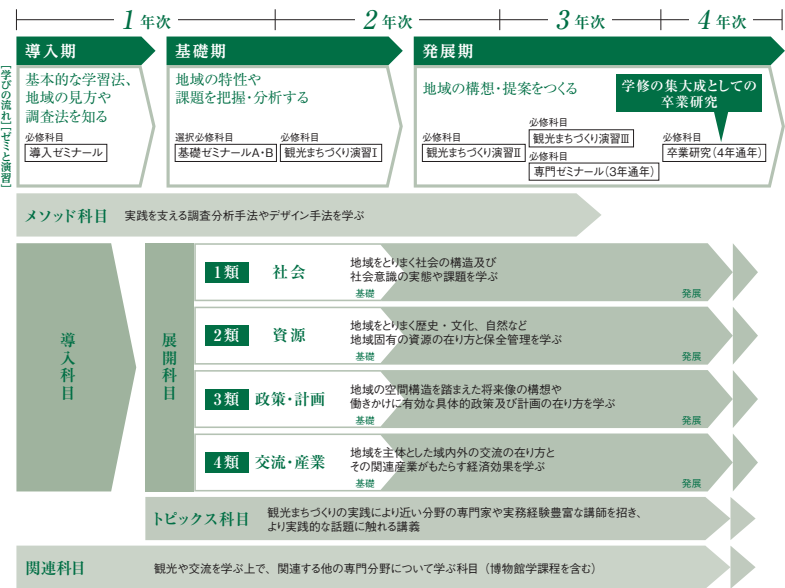
難関試験突破を目指すキャリアプログラムで、3つのSTEPから構成される。「公認会計士コース」では日商簿記検定3級、2級合格を、「国家公務員総合職コース」では宅地建物取引士、行政書士合格をそれぞれ中期目標として設定。各コースとも条件を満たし、学内選考試験を通過すれば、奨学生として最終目標であるSTEP3を無償で1年以上受講できる。

難関試験突破を目指すキャリアプログラムで、3つのSTEPから構成される。「公認会計士コース」では日商簿記検定3級、2級合格を、「国家公務員総合職コース」では宅地建物取引士、行政書士合格をそれぞれ中期目標として設定。各コースとも条件を満たし、学内選考試験を通過すれば、奨学生として最終目標であるSTEP3を無償で1年以上受講できる。



素材やデザインにもこだわった多目的ホール（たまプラーザキャンパス若木21）

観光まちづくり学部の専門教育科目の流れ



味・関心により多角的な視野で物事を捉え、それぞれ持ち寄って検証し、深い議論を進めることのできる。そこでまとめた「観光と交流」に関する課題解決策を地域に提案し、持続可能な地域の実現につなげます。

展開科目は「社会」「資源」「政策・計画」「交流・産業」の4つの類からなり、将来の進路を見据えながら専門性を高めていきます。

少人数の演習とともに、学びの柱とするのが、文系・理系の垣根なく科目を柔軟に選択できるカリキュラムです。これからの観光まちづくりに必要とされる建築や人流解析のためのデータサイエンスなど、理系分野と融合した学びを実践しています。「地域社会が協力して個性を磨き、応援団を増やす。応援団が地域経済を回し、地域を活性化させる。この流れの循環を作ることを私たちは『観光まちづくり』と考えています。その仕組み作りをけん引し、地域の外ではなく中から地域を元気にする人材が育つことを確信しています」

（西村幸夫・観光まちづくり学部長）

他者理解を通じて思考力と汎用的能力を涵養

國學院大學には、目的に合わせて選べる留学・国際交流プログラムの多数用意されています。授業を休まず異文化体験をするなら夏期・春期の短期留学、しっかりと語学力を身につけるなら Semester（1学期間）留学や、半年～1年間の協定留学が選択肢となります。国際性を身につける手段は、留学だけに限りません。留学生のサポートやイベント参加を通じて、キャンパスに居ながらにして国際交流や語学力強化ができます。学生の夢を実現させるキャリア支援も充実しています。近年では大勢の人の前で発表したり、聞き手に分かちやすいように話をしたりするための能力「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」が重視されていますが、その涵養のために、法学部や経済学部では PBL（問題解決型授業）やアクティブ・ラーニングの導入しています。

自己実現に向けた手厚いサポート体制

一般企業への就職には、早いうちから仕事の現場を訪問し、働く人から話を聞く「業界別体験イベント」

自己実現に向けた手厚いサポート体制が整っています。



針本正行学長
1974年國學院大學文学部文学科卒業。79年同大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学。専門は平安時代文学。文学部長、副学長を経て2019年より現職。

「本学は、物事の本質を究めることを教育研究の指針としています。物事の本質を知るために国や社会、地域の歴史、文化のはじまりや成り立ちを究明することは、自らが生きる現代社会を問い直すことにつなが

2022（令和4）年4月には、観光を基軸として、持続可能な地域づくりを目指す「観光まちづくり学部」が開設されました。

地方では少子高齢化や都市部への一極集中などの影響により過疎化が進行し、地域経済の衰退が危惧されています。こうした中、「観光まち

や、大手優良企業の人事担当者による説明会「企業セミナー」の開催に加え、國學院生にチャレンジしてほしい企業 201社をまとめた冊子「企業大研究」を配布。また、「OB・OG内定者アドバイザー」では、自らOB・OG訪問のアイコントを取らなくても、ブースをまわるだけで國學院大學出身の先輩社員にその企業の話を聞けるのが特長です。内定を獲得した4年生は「内定者アドバイザー」として、エントリーシートへの添削などで後輩を応援します。対策面では、筆記試験対策ポータルサイトを基軸とした配信講座や本番さながらの模試受験のほか、企業の採用担当者による模擬面接指導会などのサポートも充実しています。公務員またはグローバルビジネスを目指す学生には、全学共通実践的キャリア開発プログラム「PCAP」を設置。講義だけでなく、留学やインターンシップへの挑戦も支援しています。さらに、国家公務員総合職や公認会計士など難関資格試験に挑む学生には、独自のキャリアアッププログラム「K-PLAS」を提供するなど、自己実現に向けた手厚いサポート体制が整っています。

1882（明治15）年に国学・神道の研究教育機関として創立された「皇典講究所」を母体として設立された國學院大學。1890（明治23）年公示の「國學院設立趣意書⁽¹⁾」には、国史・国文・国法を中心に学び、海外百科の学問をも網羅兼修する旨が記されています。日本文化を学び、他国の在り方を学び、改めて日本の在り方を問い直すという考え方は、140余年にわたり連綿と受け継がれてきました。

国際化、多様化が進む現代において、「今生きている社会の問題の本質とは何か」「自分自身の存在意義とは何か」を改めて問い直し、より良い未来を創造する人材を育成しています。

2022（令和4）年4月に開設した「観光まちづくり学部」では、観光と交流を軸に地域の魅力と課題を探し出し、そこに住む人々と一緒に活力ある持続可能な地域社会の実現に取り組んでいます。

國學院大學

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 入学課 TEL 03-5466-0141 <https://www.kokugakuin.ac.jp/>

「物事の本質を問い直す」ことで、他者を尊重し、未来をひらく新たな知を紡ぎ、より良い共生社会を創造する人材を育成

日本の価値観を基軸に国際課題の解決に挑む

國學院大學は、日本と日本文化を研究し、国内外に発信することで日本理解を推進しています。

令和4年度からの中期5カ年計画においては、「知の創造。日本を見つめ、未来をひらく」という将来像を打ち出し、「問い直す」「学び合う」「共に生きる」を教育目標に掲げました。大学は単なる知識の伝達ではなく、教員と学生、学生と学生とが共に学び合い、学生の知を日々新たにするとともに、既存の知を問い直し、知を創造する場です。國學院大學は、未来の共生社会を創り出す人材を育成し、これまでの知の蓄積を踏まえて、物事の本質を究め、日本の淵源に思いをいたし、未来をひらく大学となります。

文理融合の学びに挑む観光まちづくり学部

2022（令和4）年4月には、観光を基軸として、持続可能な地域づくりを目指す「観光まちづくり学部」が開設されました。

地方では少子高齢化や都市部への一極集中などの影響により過疎化が進行し、地域経済の衰退が危惧されています。こうした中、「観光まち

づくり学部」では、日本各地の地域社会が持つ奥深い歴史文化への理解と、地域の環境・社会・経済におけるさまざまな課題を分析・解決する能力を備え、地域社会の活力として貢献する人材の育成を目指します。

カリキュラム（左ページ上図）では4年間を通じて演習科目を学ぶことが大きな特色で、1年後期からはフィールドワークを重視した選択必修科目「基礎ゼミナール」を開講。南雲勝志ゼミでは教員が直接デザインに携わった東京駅丸の内・行幸通りを見学したのち、通りの街灯の材料づくりに携わった川口鋳物工場 キュロボラを訪れ、パブリックデザインを支えるものづくりの現場の話を伺いました。ほかにもゼミごとに、日本三名泉の一つである草津温泉や、災害復興に取り組む岩手県陸前高田市などを訪問し、観光まちづくりのあり方などを学んでいます。



モニュメント「翔」が学生を出迎える（渋谷キャンパス）